全国科学館連携協議会　東海ブロック
平成30年度東海ブロック研修会
報告書

東海ブロック　事務局
名古屋市科学館
静 岡 科 学 館

１．概要

研修会は、平成30年12月4日(火)から5日(水)にかけ、愛知県豊田市にて開催された。一日目は、とよた科学体験館において研究発表会及び館内視察が行われた後、豊田市駅前にて情報交換会が開催された。二日目は、とよたEcoful town(とよたエコフルタウン)の視察が行われた。

今回は、愛知・岐阜・三重・静岡と東海4県及び、北陸ブロックからの参加もあり、参加施設、参加者数は13施設22名となった。プログラム及び参加者名簿は別紙のとおりである。

２．各館状況報告

参加施設ごとに、今回のテーマである入館者増への取り組みや課題について、施設の近況を踏まえて口頭で報告した。各報告に対して質問が多く寄せられたほか、報告時に他施設の対応について問うなど施設同士の情報交換が積極的に行われた。特に、本年度入館者増となった施設の取り組みや、来館者の増加を見込むイベントの軸となる特別展、団体誘致での工夫、近隣施設との回遊性や競合する地域イベントへの対策などが話題に上がった。

ただし、各施設が情報収集のため活発に意見交換したことから、当初の予定時間ではおさまらず延長を余儀なくされた。質問事項を事前準備するもしくは、プログラムの時間配分など構成の見直しについて一考の余地がある。

３．研究発表

研究発表は「入館者増への取り組みについて」をテーマに、とよた科学体験館、静岡科学館の2館が発表した。とよた科学体験館の発表では、「新規来館者、リピーターを増やすために」とし、幼児に向けてのプラネタリウムイベントなど事業での取り組みが紹介された。その他にも、出前サイエンスショーなどアウトリーチ活動、LINEを活用したスマートフォン向けの広報活動の事例もご紹介いただいた。

静岡科学館は、「指定管理者仕様書記載の年間入館者数　達成に向けて」と題し、目標達成に向けて自館が持つ強みや脅威を洗い出すSWOT分析を用いた職員研修や、グループワークにより提案された内容を各職員が業務の中で取り組んでいることを発表した。

４．プラネタリウム見学と展示場見学

とよた科学体験館の館内を見学した。科学体験、ものづくり体験、プラネタリウム鑑賞を通じて、知的好奇心や科学的なものの見方や考え方を育てることを目的とした体験型の展示で構成されている。プラネタリウムでは、投影を交えた星空散歩など館独自のプログラムの概要紹介とともに、番組コンセプトやプログラムに関する館の方針なども説明いただいた。サイエンスホールでは、錯視やものづくりをテーマにした装置や、科学館の協力者である市民からなる「ものづくりサポータ

ー」が作成した実験モジュールのご紹介を受けた。実験モジュールのクオリティは、非常に高く、多くの参加者が熱心に視察していた。

５．視察

５日(水)は、とよたEcoful town(とよたエコフルタウン)を視察した。

低炭素社会の実現に向けて先進的なチャレンジをする環境モデル都市として、国から選定された豊田市の取り組みについて、様々な展示物を通して説明を受けた。

環境負荷の少ないバイオミメティクス技術や製品の開発、超小型電気自動車や水素自動車の交通利用、太陽光発電を積極的に活用したスマートハウスなど、様々な分野から行われている環境先進都市創造に向けた取り組みについて話を伺うことができた。

６．経費

別紙１を参照。

７．研修会の様子

写真１　開会行事

写真２　研究発表の様子

写真３　とよた科学体験館視察

写真４　とよたEcoful town視察

８．研修会参加者

別紙２を参照